

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 4 月 12 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.7 m ³ /h	25.6	105.5 kPa abs	A系:0.09 vol% B系:0.09 vol%
		給水系：約 4.7 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 6.0 m ³ /h	51.1	29.38 kPa g	A系:0.20 vol% B系:0.19 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.2 m ³ /h	55.1	0.29 kPa g	A系:0.19 vol% B系:0.17 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1～3号機】・4/7 17:00 頃 当社社員がプラントデータを確認していたところ、原子炉格納容器および原子炉圧力容器へ窒素供給を行っているラインの流量が0m³/hになっていることを確認。現場を確認したところ、16:43 圧縮機故障警報により、窒素供給装置(窒素ガス分離装置A)が停止していることを確認。その後、17:43 窒素供給装置の予備機(窒素ガス分離装置B)を起動し、17:56 原子炉格納容器および原子炉圧力容器への窒素供給を再開。なお、1～3号機原子炉格納容器関連パラメータ、水素濃度、モニタリングポストデータについて、有意な変動は確認されていない。

【1号機】・4/11 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、1.4～3.1×10⁻³Bq/cm³であり、再臨界判定基準の1Bq/cm³を超えていないことを確認。

【2号機】・4/11 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、キセノン 135 は当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値(9.1×10⁻²Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/cm³を超えていないことを確認。また、原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値(2.3～2.4×10⁻¹Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準の1Bq/cm³を超えていないことを確認。

【3号機】・4/11 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値(3.5×10⁻¹Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/cm³を超えていないことを確認。

<2. 使用済燃料プールの状況> (4/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.0
2号機	循環冷却システム	運転中	18.3
3号機	循環冷却システム	運転中	17.7
4号機	循環冷却システム	運転中	28

【2号機】・4/12 10:06 1/19 から4/2にかけて、逆浸透膜による塩分除去装置によって塩分濃度を低減してきたが、さらに塩分濃度を低減するため、新たにイオン交換装置を設置し、準備が整ったことから、同装置の運転を開始。

【4号機】・4/12 14:44 4号機使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、「熱交換器ユニット漏えい流量大」の警報が発生し、当該システムのポンプが自動停止。系統からの漏えいの有無について現場確認を行った結果、以下の漏えい事象を確認。使用済燃料プール冷却システムが自動停止した事象と漏えいの関連性について、今後調査を行う予定。なお、停止時の使用済燃料プール水温度は28℃であり、温度上昇率は約0.5℃/hと評価している。

①系統からの漏えいの有無などの確認を行っていたところ、同日午後3時4分頃、当該冷却システムにヒドラジンを注入する配管に設けた逆止弁より、7秒に1滴程度、ヒドラジンが漏れていることを確認したことから、ヒドラジンの注入弁を閉止し、漏えいは停止(同日午後1時35分から同日午後2時56分にかけてヒドラジン注入を実施)。逆止弁の直下に漏れたヒドラジンの量は約20cc(10cm×20cm×1mm程度)。

②同日午後3時10分頃、4号機廃棄物処理建屋の1階東側において、使用済燃料プール代替冷却ラインの配管フランジ部より、2秒に1滴程度、系統水が漏れていることを確認。その後、同日午後3時55分頃、当該フランジ部の増し締めを実施し、漏えいが停止したことを確認。系統水は、フランジ部近くのファンネルを中心に、約20リットル程度(1m×2m×1~2cm程度)漏れた状況を確認。床面に漏れたヒドラジンおよび系統水は、廃棄物処理建屋内に留まっており、これら2箇所以外において、現場確認により、漏えいがないことを確認。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	4/11 9:26 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	4/10 13:31 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋 →	仮設タンク	4/12 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/12 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/12 12:20 頃、2号機および3号機原子炉建屋間の道路において、3号機原子炉建屋上部のガレキ撤去工事に使用する重機(クラブバケット)の燃料(軽油)が当該車の下部にある鉄板に約 1.5m×約1m の範囲で漏れていることを確認。同日 12:40 頃、当社より富岡消防署へ連絡。その後、消防本部および富岡消防署による現場確認を受け、14:05 に当該油漏れについては消防法に基づく危険物施設からの漏えいには該当しないと判断される。なお、発見した時点で油の漏えいは停止しており、本事象による外部への放射能の影響はない。

以上